

株主のみなさまへ

平成18年度 **中間報告書**

平成18年4月1日～平成18年9月30日



この星に、たしかな未来を。

Dramatic Technologies

 **三菱重工**

株主の皆様へ当社への御理解を一層深めていただくために、当社の幅広い製品群と技術力、ワールドワイドな事業展開を紹介するPR誌「三菱重工グラフ」をホームページにて公開しております。定期購読（1,000円／年）の御登録も受け付けております。

当社ホームページ

企業情報

三菱重工グラフ概要

三菱重工グラフ

<http://www.mhi.co.jp>

定期購読を御希望の方は
こちらからお入りください。

目次

- ごあいさつ 1
- 部門別の概況 4
- トピックス 5
- 工場見学会の御報告とお知らせ 8
- 連結中間決算の概要 10
- 単独中間決算の概要 12
- 会社の概要 13

●表紙の説明

横浜製作所に設置された国内最大級の風力発電システム「MWT92/2.4」



ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別の御支援、御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。「株主のみなさまへ」をお手もとにお届けするに当たりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

当上半期における我が国経済は、個人消費が堅調に推移するとともに、引き続き好調な企業業績を反映し、設備投資も高水準の伸びが持続しました。一方、輸出については、米国経済の減速により鈍化の傾向が見られましたが、全体としては概ね緩やかな景気回復基調が続きました。

このような状況の下、当社グループは、収益性をより重視し、得意分野に注力した受注活動を強力に推進いたしました。この結果、当上半期における連結受注高は、スペイン向けガスタービンコンバインドサイクル火力発電プラントの成約に加え、米国向け風車が大きく伸長した原動機部門、LPG船やLNG船を受注した船舶・海洋部門で増加しました。また、民間輸送機が堅調に推移した航空・宇宙部門、海外でフォークリフトやターボチャージャ（過給機）が好調であった中量産品部門でも前年同期から増加したため、機械・鉄構部門の減少はありましたが、全体では1兆3,584億58百万円となり、前年同期を約7%上回りました。連結売上高は、海外向け火力発電プラントの工事が増加している原動機部門をはじめ、船舶・海洋部門、中量産品部門等で増加し

たため、機械・鉄構部門では減少したものの、全体としては前年同期を約8%上回る1兆3,524億74百万円となりました。損益面では、営業利益は443億12百万円、経常利益は334億41百万円となり、前年同期からそれぞれ201億67百万円、120億41百万円改善しました。この結果、中間純利益は219億4百万円となり、前年同期から69億96百万円改善しました。主な要因としては、近年の好調な受注状況を反映して売上高が前年同期に比べ増加したことに加え、為替レートが円安傾向で推移したことが挙げられます。さらに、費用低減や生産効率の追求等の採算改善活動を推進したことにより、資材費上昇等の悪化



左 佃社長 右 西岡会長

要因を吸収して、前年同期を上回る利益水準となりました。

なお、当上半期の単独業績は、受注高は1兆394億85百万円、売上高は1兆603億17百万円、営業利益は282億35百万円、経常利益は200億円、中間純利益は156億52百万円となりました。

当社は、利益の水準並びに事業環境を考慮して平成16年度及び平成17年度において中間配当の実施を見送ってまいりましたが、当上半期の決算実績及び年間の業績見通しを考慮し、当年度の中間配当金につきましては、平成18年10月31日開催の当社取締役会の決議により、1株につき3円とし、平成18年12月5日からお支払いを開始することとさせていただきます。

今後の我が国経済は、個人消費及び設備投資は当面堅調に推移するものと思われませんが、米国経済の減速による輸出の伸びの鈍化に加え、国内金利の上昇や原油、非鉄金属等の原材料価格の高止まりによる企業収益への圧迫も懸念され、先行きは必ずしも楽観を許さない状況にあります。

このような経営環境の下、当社グループといたしましては、収益力の回復を確実なものとするため、昨年より取り組んでいる損益改善のための全社緊急活動「アクション05」により、あらゆるコストの低減や生産効率の追求等を引き続き強力に推進してまいります。

本年4月からは「確固たる収益体質の構築」、「ものづくり技術基盤の強化」、「社会・顧客の信頼性確立」を基本方針とした「2006事業計画」（中期経営計画）にも着手しており、本計画では次の変革に取り組んでおります。まず、収益構造の転換を目指す「プロダクトミックスの変革」として、ガスタービンやターボチャージャ（過給機）の生産能力の増強、B787民間輸送機の量産体制の構築等による伸長事業の強化・拡大を図る一方、押出成形機やコンクリートポンプ車の事業を他社へ譲渡するなど成熟・低収益事業への対策を加速いたします。

また、社内生産能力の強化及び生産技術力の向上、人材の育成等による生産現場の革新や量産品のものづくり手法の全社展開等を本年4月に活動を開始した「ものづくり革新推進室」を中心に取り組むことにより、「ものづくり基盤の変革」を推進するとともに、当社製品の一層の信頼性向上にも努めてまいります。

更に、「リソース投入の変革」として、団塊世代の大量退職に伴う社員の減少に対処するため、新卒や中間採用の大幅な拡大による人材確保に加え、設備投資や研究開発費といった経営資源の伸長事業への重点投入を積極的に行ってまいります。

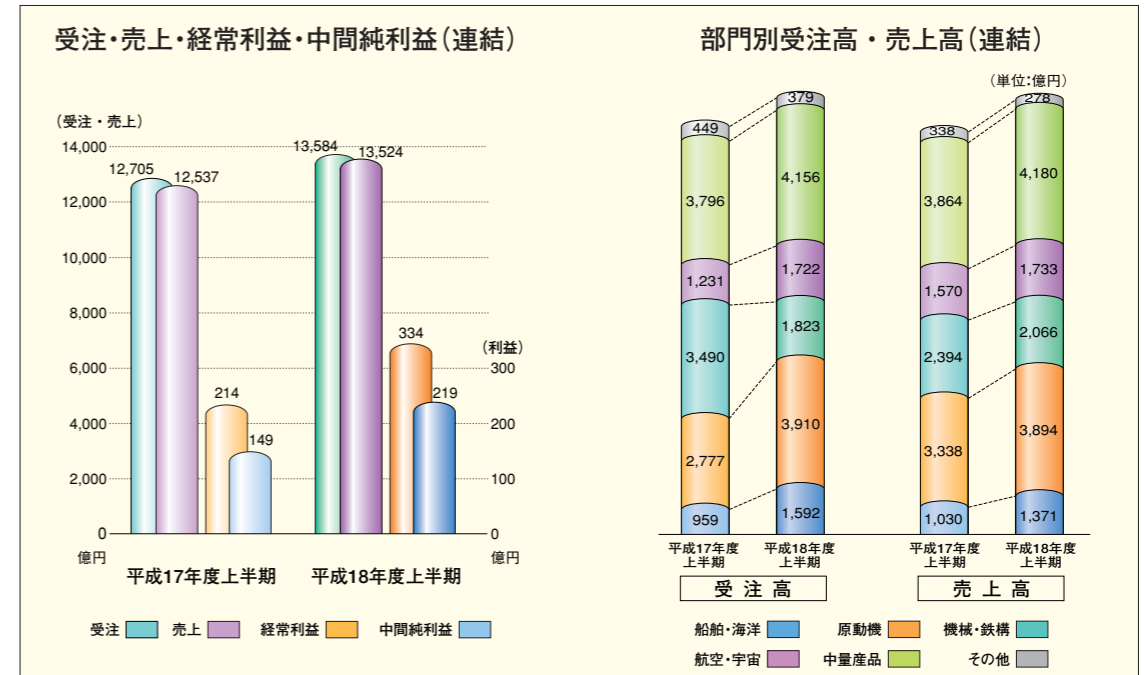
これら3つの変革を強力に推進する一方、CSR（企業の社会的責任）を基軸に据えた経営姿勢を一層明確にするため、本年10月

に取締役社長を委員長とするCSR委員会を新たに設置いたしました。本委員会では、「社業を通じた社会への貢献」、「環境・人権・労働」、「コーポレートガバナンス、コンプライアンス」という3つの分野の充実に向けて戦略的・総合的に取り組んでまいります。とりわけコンプライアンスについては、CSRの土台であることから全社を挙げてその徹底に努める所存です。本委員会の活動を通して社会的責任を一層強く意識した事業活動を推進することで、広く社会

の信頼と支持の獲得にも努めてまいります。株主の皆様におかれましては、当社グループの事業活動に御理解をいただき、従来にも増して御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年12月

取締役会長 **西岡 喬**
取締役社長 **佃 和夫**



部門別の概況

船舶・海洋部門

依然として新造船需要は高水準で推移し、十分な仕事量を確保している中で、得意とする船種を中心に受注活動を展開した結果、LPG船、LNG船、自動車運搬船等を成約したため、連結受注高は前年同期を大幅に上回る1,592億79百万円となりました。

連結売上高は、船舶引渡隻数の増加等により、前年同期を上回る1,371億39百万円となりました。営業損益は、厳しい船価の時期に受注した案件の売上が中心であったことや、鋼材等資材費高騰の影響を受けたことなどにより、5億67百万円の損失となりました。

原動機部門

海外では需要の急拡大を背景に米国向け風車が大幅に伸長したほか、欧州及びアジアでガスタービンコンバインドサイクル火力発電プラントを成約するなどの成果をあげました。また、国内でも拡販活動に注力した既納プラントの改良・改造・修理工事が増加したほか、原子力関係の受注も増加しました。以上の結果、部門全体の連結受注高は3,910億3百万円となり前年同期を上回りました。

連結売上高は、海外向け火力発電プラント工事の増加等により、前年同期を上回る3,894億56百万円となり、営業利益は285億46百万円となりました。

機械・鉄構部門

国内では廃棄物処理装置、研究用試験装置が減少しましたが、好調な民間設備投資を反映し、化学プラント及び排ガス処理装置が増加しました。一方、海外では中東及び東南アジア向けの風力機械が伸長したものの、化学プラント、交通システムが大型案件の下期以降への繰延べなどにより減少しました。以上の結果、部門全体の連結受注高は前年同期を大幅に下回る1,823億12百万円となりました。

連結売上高は、売上規模が大きかった前年同期を下回る2,066億23百万円となりました。また、営業損益は追加費用の発生に加え、採算改善の遅れもあり、51億97百万円の損失となりました。

航空・宇宙部門

民間機関係は、引き続き堅調な航空旅客需要を背景に、B777民間輸送機（後部胴体等）、民間航空機用エンジン部品が伸長したため、前年同期を上回りました。また、防衛関係も誘導飛しょう体が増加したため、前年同期を上回りました。以上の結果、部門全体の連結受注高は1,722億32百万円となり前年同期を上回りました。連結売上高は、民間航空機関連や宇宙機器の増加により、前年同期を上回る1,733億28百万円となり、営業利益は33億47百万円となりました。

中量産品部門

汎用機・特殊車両関係は、市場が堅調に推移した北米及び欧州でフォークリフトが好調であったほか、欧州の排出ガス規制の強化により需要が拡大しているターボチャージャ（過給機）に加え、発電用及び産業用等の中小型エンジンも増加したため、連結受注高は2,030億86百万円、連結売上高は2,068億79百万円となり、それぞれ前年同期を上回りました。また、営業利益は82億26百万円となりました。

冷熱関係は、北米自動車メーカーの販売不振によりカーエアコンは減少しましたが、IT関連企業等の設備投資に支えられたターボ冷凍機が国内で増加したほか、新製品の投入や販売網の強化等の拡販に努めたパッケージエアコンが欧州及び中国で好調であったため、連結受注高は1,073億29百万円、連結売上高は1,063億13百万円となり、それぞれ前年同期を上回りました。また、営業利益は33億11百万円となりました。

産業機械関係は、オフセット枚葉機が中国向けで減少したものの、新聞用オフセット輪転機や工作機械等の受注が需要の堅調な国内で好調に推移したため、連結受注高は1,052億32百万円となり、前年同期を上回りました。連結売上高は、新聞用オフセット輪転機等の増加により、前年同期を上回る1,048億70百万円となり、営業利益は36億23百万円となりました。

トピックス

米国向け新設原子力発電所受注に向け現地法人を設立

当社は170万kW級の最新型加圧水型軽水炉（US-APWR）の米国販売に必要な型式証明取得手続き開始に合わせ、本年7月、当社100%出資の現地法人「MHI原子力システムズ」（MHI Nuclear Energy Systems Inc.）をワシントンD.C.に設立し営業を開始しました。米国では、地球温暖化防止や原油価格の高騰などを背景に原子力発電への志向が高まっており、既設プラントの寿命延長に向けた主要コンポーネント取替需要の増加とともに、新設プラントについても2030年頃までに数十基の需要が見込まれる有望市場となっています。今後は型

式証明取得業務とともに、新規プラントの受注活動など、米国における当社原子力事業の総合的な拠点として活動してまいります。また、これに連動して世界戦略の見直しも検討しております。



US-APWR原子力発電設備（イメージ図）

世界唯一 ナノテクが拓く“セレブな加湿器” 新型「nanomist（ナノミスト）」発売

本年10月、当社独自の形状記憶ポリマー技術の応用により、10nm（ナノメートル）* 以下の極小ミスト（霧状の水分）を放出する新型加湿器「nanomist（ナノミスト）」を発売しました。この加湿器は、優れた拡散性、分子のサイズが大きいカビや雑菌は一切通さないクリーン性、加湿器内の水や加湿空気の吹出口が熱くなく火傷の心配が一切ない安全性を実現したほか、省エネ・静音・簡単メンテナンスを兼ね備えた商品となっています。また、従来のスチームの1/600以下という細かなミストが、細胞の奥の角質層まで浸透し、目や肌に潤いを与えて保護します。

今回発売の機種は、加湿能力550ml（1時間あ

たり）タイプで、色はカームピンクとマロンベージュの2色を用意。価格は35,700円（税込み）。

*1nm=1mmの100万分の1



御購入・お取扱い方法などのお問合せは「ビーバーエアコンお買い物相談室」（フリーコール0120-81-1539 / ｲﾝｼﾞﾈｰﾘﾝｸﾞ ﾀﾞｲﾚｸｼﾞｮﾝ）へ。

トピックス

リニューアル完了！ 三菱みなとみらい技術館

最先端の科学技術に触れることができる
「三菱みなとみらい技術館」。
人気の体験型展示空間を御紹介いたします。



スカイウォークアドベンチャーの操縦席
(夜間飛行中)

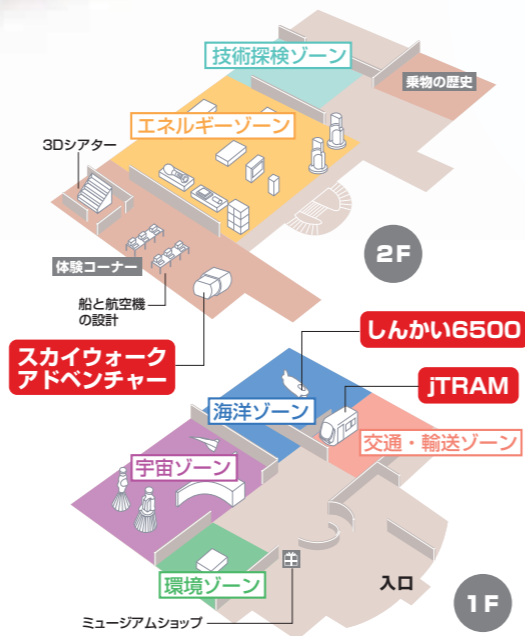
大空に

～スカイウォークアドベンチャー～

スカイウォークアドベンチャーは、ヘリコプタ操縦の疑似体験ができるシミュレーターです。上昇・下降など、実際のヘリコプタに近いダイナミックな動きで、横浜上空を想定した空中散歩が体感できます。



体験コーナー内のスカイウォークアドベンチャー



大地に

～超低床路面電車「jTRAM」～

レバーを動かして出発進行。窓の外では街の景色が流れはじめます。駅が近付いたらブレーキ操作。広島市内で「グリーンムーバーmax」として活躍している低床式LRT*車両「jTRAM」の原寸大模型です。車内では、三菱みなとみらい技術館周辺の疑似運転が楽しめます。

※LRT (Light Rail Transit)



画面を見ながら運転操作

深海に

～有人潜水調査船「しんかい6500」～

モニター画面を見ながら潜行して海底探査のミッション開始。シューティングゲーム感覚で、深海の生物の写真撮影や捕獲に挑戦できます。「しんかい6500」のシミュレーターで未知なる世界を体験してみてください。



しんかい6500の模型



御家族みんなで遊んで学べる ミュージアムです！

当館は、青少年の科学技術への関心を育むことを目的に、平成6年6月に開設。今年9月にはすべてのゾーンのリニューアルが完成し、新しい「ものづくり」に対応する総合的な学習の場が整いました。皆様の御来館を心よりお待ちしております。

三菱みなとみらい技術館 館長 福原由香

三菱みなとみらい技術館 イメージキャラクター「テクノくん」

いつも双葉(フタバ)を手に持つ「テクノくん」。双葉には、子供たちが持っている科学技術の“発想の芽”を未来に向かって広げてほしいという願いが込められています。



※御来館の際には、裏表紙左下の「三菱みなとみらい技術館御招待券」(有効期限：平成19年3月31日)を是非御利用ください。

工場見学会の御報告とお知らせ

当社は、株主・投資家の皆様との信頼関係を築くために、業績の安定・向上に加え、各種刊行物の発行や、ホームページ等により情報開示の充実を図ってきました。平成17年からは、一層の御理解をいただくために株主の皆様を対象とした工場見学会を開催しております。皆様から寄せられた御感想を一部御紹介いたしますとともに、今後も開催時期や場所等の検討を重ね、株主の皆様との信頼関係を強めていきたいと思っております。



長崎造船所工場見学会（平成18年9月15日実施）

参加者の御感想

- 社員の真摯な態度に感動しました。ものづくりの原点を見学できてよかった。
- ものづくりに対するチームワークに感心しました。良い意味での「自由」と「切磋琢磨」の雰囲気がありました。
- 今回の見学会に参加できたことは本当に有意義でした。まず広いのに驚き、更に工場には油・ゴミ一つ落ちていないことに驚きました。
- 組み立て作業は、機械による自動化のみではなく人間的な職人技が必要だと感じました。
- これほど巨大な設備をもつ造船の仕事も、事業の規模としては工場全体の30%との説明があり、史料館で見た今までの造船の華々しい歴史を見るとちょっと寂しい気がしました。
- 史料館で「武蔵」の写真等があり実に感慨深いものとなりました。また、その建造ドックを説明いただき、赤茶けた鉄骨に時の流れを感じました。



第5回工場見学会を「汎用機・特車事業本部」にて開催いたしますので、多くの皆様の御応募をお待ちしております。

見学会概要

- **見学場所** 汎用機・特車事業本部（神奈川県相模原市）
昭和45年に相模原に設立。発電用等のエンジンや、世界中の自動車メーカーで採用されているターボチャージャー、オペレータの操作性・安全性を高めたフォークリフトも製作しています。
- **実施日時** 平成19年3月16日（金） 14:00～17:00
- **対象者** 当社株主の方（同伴者1名様まで可）
- **集合・解散** JR横浜線 相模原駅
- **参加費** 無料（ただし、集合・解散場所までの往復交通費は各自の御負担とさせていただきます。）



応募要領

- **応募方法** 右記のとおり官製はがきに必要な事項を御記入の上、御応募ください。
- **締切日** 平成18年12月31日（日）（当日消印有効）
- **募集人数** 80名様（同伴者を含む）

※お申し込み多数の場合は、抽選とさせていただきます。
厳正な抽選の上、当選発表につきましては当選者への御連絡（1月中旬発送予定）をもって代えさせていただきます。
 その際、当日の運営等詳細を合わせて御連絡いたします。
 ※御応募により当社が取得する個人情報、本工場見学会を実施する上で必要な限りにおいてのみ使用いたします。
 ※御見学時は、バスの乗り降りや階段の昇り降りがあり、1時間程工場内をお歩きいただくこととなりますので御了承ください。
 なお、御高齢の方及び小学生以下の方の御参加の際には、同伴者をお願いする場合があります。

お問い合わせ先

三菱重工業株式会社 総務部 文書・管財課
 電話番号:03-6716-3111（大代表）
 8:45～17:30（土・日、祝祭日、当社休日を除く）

50円 切手	官製はがき	1088215	●郵便番号
	三菱重工業(株) 総務部 文書・管財課 工場見学会係 行	東京都港区港南 一丁目16番5号	●住所
			●電話番号
			●氏名 (ふりがなを御記入ください。)
			●性別
			●年齢
			●同伴者の氏名、性別、 年齢、住所
あて名面			裏面

連結中間決算の概要

中間連結貸借対照表の要旨

(単位：億円)

資産の部	平成18年度 中間期末	平成17年度末	負債及び純資産の部並びに 負債、少数株主持分及び資本の部	平成18年度 中間期末	平成17年度末
	(平成18年9月30日現在)	(平成18年3月31日現在)		(平成18年9月30日現在)	(平成18年3月31日現在)
流動資産	26,124	25,434	流動負債	16,571	16,266
現金預金	2,435	1,951	買入債務	6,592	6,696
売上債権	9,862	10,974	短期借入金	3,826	4,093
たな卸資産	10,645	9,715	前受金	3,701	3,348
繰延税金資産	763	759	その他流動負債	2,450	2,127
その他流動資産	2,416	2,034	固定負債	10,609	10,263
固定資産	14,832	15,036	社債	2,408	2,133
有形固定資産	7,875	7,652	長期借入金	5,911	5,756
無形固定資産	335	357	繰延税金負債	838	956
投資その他の資産	6,620	7,026	その他固定負債	1,450	1,417
投資有価証券	5,888	6,281	負債合計	27,180	26,530
繰延税金資産	95	101	少数株主持分	—	177
その他	637	643	資本金	—	2,656
			資本剰余金	—	2,038
			利益剰余金	—	7,184
			その他有価証券評価差額金	—	1,933
			為替換算調整勘定	—	1
			自己株式	—	△51
			資本合計	—	13,762
			負債、少数株主持分及び資本合計	—	40,471
			株主資本	11,915	—
			資本金	2,656	—
			資本剰余金	2,038	—
			利益剰余金	7,271	—
			自己株式	△51	—
			評価・換算差額等	1,668	—
			その他有価証券評価差額金	1,685	—
			繰延ヘッジ損益	△22	—
			為替換算調整勘定	4	—
			新株予約権	2	—
			少数株主持分	190	—
			純資産合計	13,776	—
資産合計	40,956	40,471	負債及び純資産合計	40,956	—

(注) 有形固定資産の減価償却累計額 (平成18年度中間期末) 15,314 億円 (平成17年度末) 15,167 億円

資産合計

平成18年度中間期末の資産合計は、主として事業規模が拡大している民間航空機を中心に、たな卸資産、有形固定資産が増加したことにより平成17年度末に比べて増加しました。

負債合計

平成18年度中間期末の負債合計は、主として前受金の増加と、事業規模拡大による資金需要の増加に対応した社債発行により平成17年度末に比べて増加しました。

純資産合計

平成18年度中間期末の純資産合計は、主として投資有価証券の評価替に伴う評価・換算差額等の減少により平成17年度末の少数株主持分・資本合計に比べて減少しました。

中間連結損益計算書の要旨

(単位：億円)

	平成18年度中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	平成17年度中間期 (平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)
売上高	13,524	12,537
営業費用	13,081	12,296
●営業利益	443	241
営業外収益	105	121
営業外費用	214	149
●経常利益	334	214
特別利益	47	—
特別損失	17	—
税金等調整前中間純利益	364	214
法人税等	137	54
少数株主利益	7	10
●中間純利益	219	149

(注) 1株当たり中間純利益 (平成18年度中間期) 6円53銭 (平成17年度中間期) 4円44銭

営業利益・経常利益・中間純利益

平成18年度中間期の営業利益・経常利益・中間純利益が平成17年度中間期に比べて増加したのは、主として近年の好調な受注状況を反映した売上の増加に伴う利益の増加に加え、為替レートが円安傾向で推移したこと、費用低減や生産効率の追及等の採算改善活動を推進したことによるものです。

中間連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：億円)

	平成18年度中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	平成17年度中間期 (平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)
●営業活動によるキャッシュ・フロー	1,086	782
●投資活動によるキャッシュ・フロー	△647	△477
●財務活動によるキャッシュ・フロー	55	△479
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	14
現金及び現金同等物の増減額	492	△158
現金及び現金同等物の期首残高	1,762	1,897
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	4	28
現金及び現金同等物の期末残高	2,260	1,767

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益の増加等により平成17年度中間期比304億円増加の1,086億円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、民間航空機をはじめとした設備投資等により平成17年度中間期比170億円支出が増加し△647億円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済、配当金の支払等がありましたが、今後の資金需要の増加に対応して資金調達を行ったことにより55億円となりました。

単独中間決算の概要

中間貸借対照表の要旨

(単位：億円)

資産の部	平成18年度中間期末	平成17年度末	負債及び純資産の部 並びに負債及び資本の部	平成18年度中間期末	平成17年度末
	(平成18年9月30日現在)	(平成18年3月31日現在)		(平成18年9月30日現在)	(平成18年3月31日現在)
流動資産	21,830	21,406	流動負債	13,438	13,285
現金預金	1,701	982	買入債務	5,691	5,836
売上債権	8,615	9,550	短期借入金	2,618	2,837
たな卸資産	8,669	8,192	前受金	3,476	3,130
繰延税金資産	578	582	その他流動負債	1,651	1,481
その他流動資産	2,264	2,098	固定負債	9,381	9,520
固定資産	13,124	14,471	社債	2,400	2,100
有形固定資産	5,969	5,866	長期借入金	5,280	5,153
無形固定資産	188	200	繰延税金負債	919	1,502
投資その他の資産	6,967	8,404	その他固定負債	781	764
投資有価証券	6,178	7,654	負債合計	22,820	22,806
その他投資等	788	749	資本金	—	2,656
資産合計	34,954	35,877	資本剰余金	—	2,035
			利益剰余金	—	5,885
			その他有価証券評価差額金	—	2,545
			自己株式	—	△51
			資本合計	—	13,070
			負債及び資本合計	—	35,877
			株主資本	10,546	—
			資本金	2,656	—
			資本剰余金	2,035	—
			利益剰余金	5,906	—
			自己株式	△51	—
			評価・換算差額等	1,583	—
			その他有価証券評価差額金	1,602	—
			繰延ヘッジ損益	△18	—
			新株予約権	2	—
			純資産合計	12,133	—
			負債及び純資産合計	34,954	—

中間損益計算書の要旨

(単位：億円)

	平成18年度中間期	平成17年度中間期
	(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)	(平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)
売上高	10,603	9,944
営業費用	10,320	9,834
営業利益	282	110
営業外収益	102	114
営業外費用	184	129
経常利益	200	94
特別利益	54	—
特別損失	17	—
税引前中間純利益	237	94
法人税、住民税及び事業税	9	△17
法人税等調整額	71	32
中間純利益	156	79
前年度繰越利益	—	146
中間未処分利益	—	225

(注) 有形固定資産の減価償却累計額 (平成18年度中間期末) 12,892億円 (平成17年度末) 12,853億円

(注) 1株当たり中間純利益 (平成18年度中間期) 4円66銭 (平成17年度中間期) 2円38銭

会社の概要

概要

社名 三菱重工業株式会社
本社 東京都港区港南二丁目16番5号
 〒108-8215 ☎03-6716-3111
創立 明治17年7月7日
設立 昭和25年1月11日

資本金 265,608百万円
 (平成18年9月30日現在)
従業員数 32,790名
 (同上)
ホームページ <http://www.mhi.co.jp>

役員

(平成18年9月30日現在)

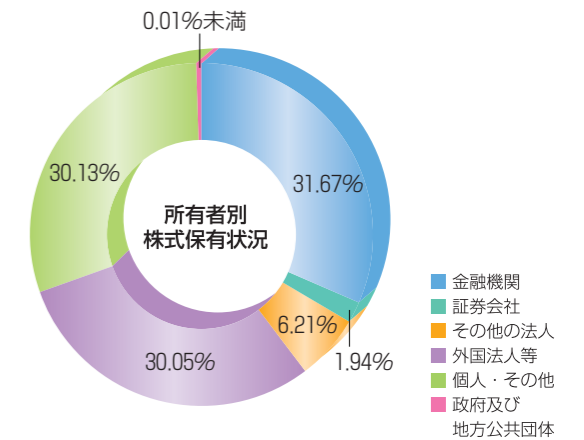
*取締役会長 西岡 喬 監査役(常勤) 富田敏徳
 *取締役社長 佃 和夫 監査役(常勤) 稲熊豊彦
 *取締役副社長執行役員 前沢淳一 監査役 岸 暁
 *取締役常務執行役員 浦谷良美 監査役 中野豊士
 *取締役常務執行役員 高岡 力 監査役 野村吉三郎
 *取締役常務執行役員 江川豪雄
 *取締役常務執行役員 福江一郎 執行役員 富川史雄
 *取締役常務執行役員 戸田信雄 執行役員 松岡利行
 *取締役常務執行役員 菅 宏 執行役員 山田陽二
 *取締役常務執行役員 大宮英明 執行役員 安田勝彦
 *取締役常務執行役員 青木素直 執行役員 井上 裕
 *取締役常務執行役員 吉田雄彦 執行役員 澤 明
 取締役執行役員 和木坂史生 執行役員 川井昭陽
 取締役執行役員 飯島史郎 執行役員 宮永俊一
 取締役執行役員 渡部 健 執行役員 新谷 誠
 取締役 佐々木幹夫 執行役員 原 寿
 取締役 和田明広

(*印は代表取締役)

株式の状況

(平成18年9月30日現在)

発行可能株式総数 6,000,000,000株
 発行済株式総数 3,373,647,813株
 株主数 301,582名



株主メモ

■決算期 …… 3月31日

■定時株主総会

開催期 …… 6月下旬

■基準日 …… 定時株主総会議決権行使株主確定日
3月31日

期末配当金支払株主確定日
3月31日

中間配当金支払株主確定日
9月30日

その他の基準日

上記のほか必要ある場合は、取締役会
の決議によりあらかじめ公告して設定

■公告方法 …… 電子公告

ただし、事故その他やむを得ない事由に
よって電子公告をすることができない場
合は日本経済新聞に掲載して行います。

電子公告掲載ウェブサイト <http://www.mhi.co.jp/indexj.html>

■単元株式数 …… 1,000株

■株主名簿管理人 …… 三菱UFJ信託銀行株式会社

■名義書換取扱場所 …… 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先及び電話照会先)

東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
〒171-8508 ☎0120-707-696 (フリーダイヤル)

■名義書換取次所 …… 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

株式についての各種手続き

名義書換、住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求・買増請求*及び相続の各種お手続きは、上記名義書換取扱場所及び名義書換取次所において取り扱っております。
なお、各種お手続きに必要な用紙については、以下の電話番号からも御請求いただけます。

専用のフリーダイヤル **0120-86-4490** (24時間・音声自動応答)

*単元未満株式の買増請求は、9月30日及び3月31日から起算してそれぞれ12営業日前から当該日までの間は、お取扱いができませんので、御留意ください。



三菱みなとみらい技術館への御招待

三菱みなとみらい技術館は、明日を担う青少年たちが「科学技術」に触れ、夢を膨らませる場になることを願い、平成6年に開設したもので、平成17年11月には入館者が通算100万人を突破しました。環境、宇宙、海洋、交通・輸送、エネルギー、技術探検をテーマに、普段触れる機会の少ない最先端の科学技術を楽しみながら学んでいただけるよう、来館者参加型の展示になっております。

所在地：横浜市西区みなとみらい三丁目3番1号

三菱重工横浜ビル内

アクセス：JR線/横浜市営地下鉄「桜木町駅」より徒歩8分
みなとみらい線「みなとみらい駅」

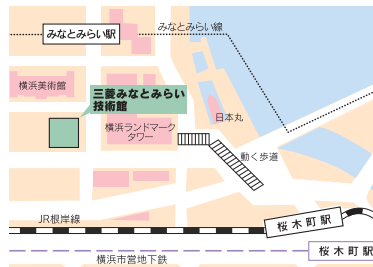
けやき通り口より徒歩3分

休館日：毎週月曜日（但し、月曜日が祝日の場合は翌日）

年末年始及び特定休館日（2月19日～23日、3月6日）

お問い合わせ先：電話番号 **045-224-9031**

ホームページ：<http://www.mhi.co.jp/museum/>



 **三菱重工業株式会社**



R70

70%再生紙使用



大豆油インキ使用

本

三菱みなとみらい技術館御招待券

有効期限：平成19年3月31日

本券を御持参ください。
(同伴者3名様まで有効)